

が、侵襲性に最大限留意する。

- ②教職課程を履修しようと思った理由と決定時期、そもそもなぜ？動機は？教員免許取得見込みは？（単位を取り切れなかったときはどうする？）

【教職への気持ちと変化】

- ③いまは、教職に就こうと思う気持ちはどのくらいあるか？（できれば教職に就きたいのか、それとも教職に就いてもよいと思っている感じか…等々、どのような思いなのかを言葉にさせていただく。）もう教職に就きたいという気持ちがない場合は、いつまで教職に就こう（就いてもよい）と思っていたか？
- ④教職課程で「教職への意欲」を高めた授業とそうでない授業…。どのような授業内容だったのか？
- ⑤教育実習はどうだったか？就活等との関係で困ったことは？（どうやりすごしたのか？）
- ⑥大学でした経験で教職に就きたい気持ちに影響を与えた他の経験はあるか？

【就活等他の進路選択について】

- ⑦他の就職活動の実施状況は？苦戦したか？（実施時期も含めて）卒業後の予定進路は？
- ⑧その経験は、教職についての考えにどのように影響したか？
- ⑨内定先と教職との魅力等の違いは？（教師の仕事はどのように見えているのか？その見え方をどのようにして内面化したのか？）

【これまでを総括してみても…】

- ⑩教職に向いているかどうかについての自己評価と変化（教職課程を履修しようと思った時期、教職志望の変化とその時期も含めて）
- ⑪教職に就けなかった理由を当事者なりに解釈すると…？
- ⑫将来、教職に就いてみたいと思うかどうか？可能性はどのくらいで、そうなるとは？（「思わない」のはなぜか？）どういう条件が整ったら教職を選んだか？
- ⑬教育政策についてこうしてほしい…という思いは？

【その他】

- ⑭その他（奨学金＝教育ローンの問題や教職志望者も「実家から通える自治体」を選択する傾向など）

### 3. かれらの言葉から見えてきたこと

世の中には数多の職業がある。テクノロジーの発展に伴って、職業の種類も仕事の流儀も大きく変貌するのが常である。AI とロボットの開発を通してこれまでにないスピードで特定の職業が消えていくことが指摘されているが、それでもこれまでのテクノロジーの発展と同様に、その新しい「道具」とどう向き合っていくかが問われ、別種の職業が生み出されると予想できる。労働が価値を生み出す行為と考えられている限り、というよりも、価値ある行為という神話が維持されている以上、公的領域での非労働／労働の区分が生み出され